

## 目 次

一、組合一般情勢	一頁
二、諸會議記錄	三頁
三、組織部報告	二頁
四、教育出版部報告	三頁
五、政治部報告	三頁
六、國際部報告	三頁
七、調査部報告	三頁
八、紹介部報告	三頁
九、其他	三頁
十、會計部報告	三頁

## 組 合 一 般 情 勢

最近に於ける最も顯著なる政治的經濟的現象は、産業合理化傾向を中心とする暗澹たる社會的不安の深刻化であつて、失業群の増大、勞働條件の低下等々の事實は左なきだに窮乏と窮迫によつて圍繞せられたる無産階級をして、今や全く生活苦のドン底に沈淪せしめつゝある現情である。是こそは資本主義經濟組織の必然的矛盾の發展によつて、自らの咽喉を扼する日本資本主義者本家群の喘ぎでありあがきであつて、田中内閣の反動政策乃至濱口内閣の緊縮節約政策は共に現段階に於ける資本主義の極度の行詰りを裏書するものと言はなくてはならない。

然も海運産業に現れた行詰り現象こそは、主として多年に亘る政府の重厚政策に馴れて健甞なる日本海運の發展に對する希望と努力とを置忘れか海上資本家群が放縱無節制なる投機的企業心を發露せる所産であるとは言へ他の産業部門に比して更に深刻の度を深めてゐることは明か事實である。

従つてその行詰りを打開するが爲に金權苟合の下に遂行せられつゝあり、又は遂行せられんとしつゝある諸政策が——極秀船建造にせよ、不經濟船の淘汰にせよ、航路乃至資本の統一整理にせよ——悉く勞働條件の低下乃至人件費の切詰めを當面の標的として海上勞働者に對し犠牲を強要しつゝあることは吾々の重大なる關心事であつて、吾々は此等の點に關する海上資本